

ホームID	ホーム名		法 人 名		評価日			
2849	グランフォレスト氷川台		株式会社 フィルケア		H29.2.4			
評価機関	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク				H29.2.19			
評価結果								
スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	B	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	B	6.2.4	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	B	非該当	6.2.5	A	A
1.2.2	B	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	B
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	B	6.2.9	A	A
1.3.3	A	A	2.4.2	A	B	6.3.1	A	B
1.4.1	B	B	2.4.3	A	A	6.3.2	B	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	C	C
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	B	B	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	B	B	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	B	B	3.1.2	A	A	7.3.1	B	B
1.4.7	B	A	3.1.3	A	B	7.3.2	A	A
1.4.8	B	B	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	B	B	4.1.2	A	B	7.4.4	A	B
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	B	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	B	B	5.1.1	B	C	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	B	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	B	B
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	C	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	B	B	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	A			
2.3.3	B	B	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
1-5-1	入居者の権利擁護については、高齢者権利擁護委員会を中心に、セルフチェックシートの活用により、職員の介護サービス提供における心構えや行動を通して、入居者の意思・意向が尊重されているか確認している。また、自己評価と他者評価を行い、入居者への声かけ、入浴への対応、適切な言葉づかい等をチェックし、権利擁護の視点に力を入れた介護に取り組んでいる。さらに、自立支援の考え方を尊重し、虐待や拘束の防止を図っている。
4-2-2	アクティビティは、レク委員会が中心となって、行事企画書・行事報告書を作成し、評価・反省を行って、次の計画にいかしている。初詣・節分・納涼祭りなど季節の行事に加え、毎月の誕生日会、書道、フラワーアレンジメント、音楽鑑賞など毎日実施している。また、外の空気を味わえる「フォレストタイム」で外出や茶話会を、「プレイケア講座」でリズム体操、歌声サロン、歌で脳トレなど行い、入居者の生活をより豊かにしている。
5-2-1	入居者が自力で食事を摂ることを目指して、ケアプランに目標を立て、自助具を活用するなど一人ひとりの状況に合わせて取り組んでいる。例えば、胃ろうの入居者と家族の「自分で食べたい」との意向を受けて、ソフト食の導入を提案し、看護師がそばで見守り、言語聴覚士が口腔マッサージ等行い、経口摂取になったケースがある。ケアマネや看護師など多職種の職員が協力・連携を図って自力摂取を進め、入居者のQOL向上に努めている。
6-1-1	入居者の自立支援と生活の充実に資するよう、個別の関わりに重点をおいて、支援にあたっている。それぞれの個性を尊重し、趣味に合わせたアクティビティを取り入れ、自己決定できる機会を増やし、家族とも連携を図って進めている。また、ホーム内は、車椅子でも移動しやすい床で自立支援を促している他、新たにアロマを導入し、各フロアの臭いを変え、嗅覚を含めた五感を刺激し、リラックス効果を生み、認知症予防にもつなげている。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所見
2-2-11	原状回復取扱規程については、入居契約書に「明け渡し及び原状回復」の中で「通常の使用に伴い生じた居室の損耗を除き、居室を原状回復することとする」としている。また、その基準は、国土交通省住宅局のガイドラインに従うとなっている。しかしながら、その取扱いの具体的表示はなく、入居者にはわかりにくい内容となっており、管理規程等に通常の使用に伴い生じた損耗の程度の具体的状況等を表示し、トラブル防止に努められたい。
2-4-1	金品授受の取り扱いについては、「お心付け辞退」の文書がホーム内に掲示され、ホームとして方針は明確になっており、その方針は全体会議で職員に周知されている。一方で、職員が受け取らざるを得ないケースも想定されるため、その対応ルールの策定が望まれる。受け取った際の報告、入居者へのお礼、受取品の処理等の手順を明確にして、金品授受のマニュアルとし、職員の処理手順の標準化を図られたい。
2-4-2	ホームで使用するマニュアルとして、本社作成の標準的な各種マニュアルが備置されている。ホームは標準的マニュアル以外にも、個別ケアを展開する中で、各種のマニュアル・手順書を必要としている。排泄介助、入浴介助、食事介助、移動介助等、入居者別に異なったマニュアル・手順書を作成しており、内容は多岐に渡っている。ホーム独自のマニュアルについて、目次・作成日の記入等の整備と、定期的な見直しルールの策定が求められる。
5-1-1	おせち料理・恵方巻・クリスマスメニューなど季節のメニューに加え、屋台料理やご当地メニューを取り入れ、茶話会で抹茶の提供も行っている。また、目で見ても楽しめるようにデザート盛り付け等、工夫がされている。メニューには、シェフのおすすめメニューやお楽しみメニューなど入居者の要望を盛り込んだメニューもあるが、選択食は実施していない。食事は毎日の楽しみであり、選ぶ楽しみも味わえるよう選択食の導入を検討されたい。